

3 番 瀬 戸

受付番号3号、質問議員3番、瀬戸伸二。

件名「新東名高速道路開通後の町のビジョンは」。

令和9年には、新東名高速道路が全線開通する予定となっており、(仮称)山北スマートICの利用も開始され、関連人口の増加が見込まれる。

私は、令和4年9月定例会の一般質問で「町の新たな玄関口、受け入れ態勢は万全か」をテーマに質問したが、開通時期が未定であったため具体的な計画は示されなかった。

第6次総合計画期間内に、(仮称)山北スマートICの開通や工事業者の撤退などが見込まれることから、町は(仮称)山北スマートICの利用計画及び周辺のランドデザインを示すべきと考え質問する。

1、「(仮称)山北スマートIC開通に伴う山北地域振興プロジェクト会議」において、「施設整備部会」「観光情報部会」での町の考えは。また、「道の駅山北」「オアシス公園」「ふれあいビレッジ」の今後における在り方は。

2、工事業者撤退後の跡地の利用計画についてどのように考えているのか。
以上。

議

長

答弁願います。

町長。

町

長

それでは、瀬戸伸二議員から「新東名高速道路開通後の町のビジョンは」についての御質問をいただきました。

初めに、1点目の御質問の「『(仮称)山北スマートIC開通に伴う山北地域振興プロジェクト会議』において、『施設整備部会』『観光情報部会』での町の考えは。また、『道の駅山北』『オアシス公園』『ふれあいビレッジ』の今後における在り方は」についてであります。町では、令和4年7月から、神奈川県とネクスコ中日本、町関係課で構成する「(仮称)山北スマートIC開通に伴う山北地域振興プロジェクト会議」を立ち上げ、スマートIC開通に伴う地域振興の具現化に向けた検討、調整を行っております。

これまで、担当者レベルで構成する「施設整備部会」を4回、「観光情報部会」を3回開催し、それぞれの所掌事務の内容について検討を行うとともに、課長レベルの会議を4回開催し、部会での検討内容について報告を受け、

今後の進め方や方針等について議論を重ねてきました。

まず、「施設整備部会」では、「道の駅山北」「オアシス公園」「河内川ふれあいビレッジ」の既存3施設について、それぞれがもっている魅力を高め、連携を強化することが求められます。各施設の現状と課題を整理し、今後の担うべき役割を絞り込み、それぞれのコンセプトを定め施設整備について、検討を進めてきました。

具体的に、「道の駅山北」については、「道の駅の機能を維持しつつ、さらに使いやすい施設」をコンセプトとし、神奈川県が実施する改修工事に向けて、売店や食堂などの施設をより有効に活用できるよう、レイアウトの変更等について検討を行いました。「道の駅山北」は、（仮称）山北スマートICを降りて最初に立地する観光施設となるため、神奈川県と連携し、魅力ある施設となるよう充実させていく必要があると考えております。

「オアシス公園」については、「スマートIC利用者が休憩に立ち寄れる施設」をコンセプトとし、駐車場や眺望スポット、芝生の多目的広場、親水スペース等の配置について図面を作成するなど検討を行いました。しかしながら「オアシス公園」は河川区域内にあり、河川法により遊具等の設置に制限を受けるため、引き続き神奈川県と協議、調整を行い、検討を進めていく必要があります。

「河内川ふれあいビレッジ」については、「オアシス公園と連携できる施設」をコンセプトとし、従来のオートキャンプ場施設として再開することを基本的な考え方として検討を進めておりますが、「オアシス公園」と同様、河川区域内にあるとともに、令和元年度の台風によって土砂災害の被害を受けたモロト沢の流路の線形変更について、引き続き神奈川県と協議、調整を行っていく中で、より具体的な検討を進めていく必要があると考えております。

次に、「観光情報部会」では、改修工事が行われる「道の駅山北」にデジタルサイネージを設置し情報発信を行うため、デジタルサイネージの機器選定や運用方法、掲載内容について検討を進めてきました。（仮称）山北スマートICは東京方面乗り降り限定のハーフICとなるため、都心からの来訪者の新たな玄関口となり、観光情報の発信拠点としても重要な役割を担うことから、神奈川県や近隣自治体と連携して広域的な情報発信の強化を図り、

県西地域の周遊を促進していく必要があると考えております。

次に、２点目の御質問の「工事業者撤退後の跡地の利用計画についてどのように考えているのか」についてであります。現在、新東名高速道路の建設工事に伴い、町内の様々な場所が工事現場事務所や作業員宿舎等に利用されており、工事完了後を見据えた中で（仮称）山北スマートＩＣの整備効果を生かした土地利用を推進していく必要があると考えております。

特に、（仮称）山北スマートＩＣが設置される清水地区においては、令和２年３月に策定した「（仮称）山北スマートＩＣ周辺土地利用構想」に基づき、「旧清水小・中学校、旧清水保育園の有効利用」をはじめとした土地利用展開イメージの実現に向けて検討を進めていく必要があります。

また、令和６年度までを計画期間とする「山北町第３次土地利用計画」におきましては、重点的な取組として「ハイツ＆ヴィラなかがわ跡地」は、観光・交流拠点として整備し「水上地区」は計画的な住宅地整備を進めることとしており、現在策定中の「山北町第４次土地利用計画」においても計画に位置づけていく必要があります。

なお、「丸山地区」については、ヒルズタウン丸山が完売したことを踏まえると、丸山地区での住宅需要は高いと思われますので、企業誘致に限定せずに検討していく必要があると考えております。

議 長 瀬戸伸二議員。

３ 番 瀬 戸 初めに、12月定例会で児玉議員から、バックキャスティングシステムについて質問があり、答弁いただいております。第６次総合計画で目標とする将来像を先に描き、それを実現する道筋を、現在に遡るというような回答をいただいておりますので、その回答に沿って御答弁いただきたいと思いますのでよろしく申し上げます。

まず最初の３施設なんですが、道の駅山北、オアシス公園、ふれあいビレッジの既存の３施設にそれぞれが持っている魅力を高め、連携を強化することが求められるというような御答弁いただきました。

私が考えるには、この３施設は三位一体で考えていく必要があるんではなかろうかと。三つの施設が総合的に効果を発揮できるようなシステムになっていく必要があるかと思うんですが、この３施設に対する将来像については

どのようなお考えをお持ちでしょうか。

議
町

長 町長。

長 ありがとうございます。とにかくスマートＩＣが、令和９年に開通しますと、一番先に通過するのがこの三つの施設だというふうに考えております。それだけこの三つの施設をどういうふうに使っていくのか、またどういう来訪者が、どういうふうに希望を持ってるかというのが一番大事なことだろうというふうに考えております。

私の今までの最近のいろいろな道の駅とかですね、様々なところを視察も行きましたけども、考えておりますのは、やはり情報をまずそこから入手するというのは皆さんの大体の車で来られた方の、大半の方がコンビニか道の駅で、まずトイレ休憩とか、あるいは目的地が、例えば、今日やってるのかとか、混んでるのかとか様々なことを、情報を取るというのが一番多いんだろうというふうに思ってます。

ですから、やはり道の駅の役割としてはその情報を、的確な今一番新しい情報をどのように来訪者に伝えるかというのは、おそらく一番大事な役割ではないかなと。そういう方法がどういうふうにとれるかというのは、道の駅の一番のまずコンセプトになるのではないかな。そしてオアシス公園については、やはり一度に大量の方が来られても、そういう対応ができないということを見ると、やはりオアシス公園あたりで駐車していただいて、時間をちょっと使っていただきながら、その情報交換をスムーズにできるというような方法をとらざるを得ないんだろうというふうに思っております。そしてふれあいビレッジのほうについては、やはり今までのような地域の皆さんにオートキャンプ場として使っていただくというコンセプトもあるんですけど、多分なかなか難しいだろうと、やはりそれだけの規模の企業なり、何かと提携しながら進めていかないと、あれだけの施設ですから、なかなかその運営についてもいろいろ難しいのではないかなというふうに考えておりますんで、この三つについては、大体そういうような方向性の中で進めていきたいなというふうに思っております。

特に清水の方についてはいろいろとお話をしておりますけど、例えばトンネルのインターの上のところを活用できないかとか、あるいは当然、清水小・

中・保育園も含めて、どのように活用したらいいかというような御相談も受けております。

しかし、まず最初はこの三つの施設がしっかりとその役割を果たしていかなければ、そこからなかなか、いきなり、ほかのところへぱっと行っていただけということはないというふうに思っておりますので、そういった意味では、その三つの施設はまず情報をどういうふうにコントロールして、お客さんをどちらの方向へ振り向けるか、またお客さんがどこへ行きたいか、何をしたいか、そういったことを把握しながら調整していく、そういったような機能が非常に多くなるのではないかなというふうに考えております。

議 長 瀬戸伸二議員。

3 番 瀬 戸 今、町長から答弁いただいたんですが、私はちょっと考え方が違ってまして、この以前にも道の駅について言ったんですが、この道の駅自体が目的地だと。それと、今後オアシス公園も、ふれあいビレッジも目的地にしていかなくちゃいけないのではなかろうかと私はそう思ってるんです。

その上でもう私の生まれるずっと前になくなってしまったんですけど、山北駅では、鮎ずしが名産品として名物として売られてた。例えば、鮎ずし復興して、道の駅で売れば、そこに目的地として鮎ずしを買いに来る。そんなことも一つの案としてできると。例えば、ふれあいビレッジに関しては、もうほかでもやってるんですけど、マス釣り場を設けるとか、なかなか河川法の関係があって難しいんですけど、オアシス公園にドローンの研修場を設けるとか、施設は難しいんですが、スケートパーク、ぐみの木が好評であれば、それらを設けてもいいと思うんです。

河川法の関係についてはアイデアを出した上でやっていくべきではなかろうかと思うんですが、以前、ウェルカムサインを作ったグループという、プロジェクトチームというのはまだ存在してるんでしょうか。

議 長 町長。

町 長 瀬戸議員のほうから違う考え方を示されましたけども、実際問題、想定問題なんですよ。要するにスマートインターを造るときの平均の車の台数がその当時1,300台、1日平均というふうに想定されてます。今現在、どういうふうな状態かという、伊勢原とか秦野が開通しておりますけど、大体3倍か

ら5倍ぐらいの車来ているというふうに情報として聞いております。そうすると、うちが3倍で見ても、三千何百台というような、4,000台に近いような台数が、少なくとも、平日はともかくとしても、土日は間違いなく来るだろうと予測されます。だけど車のお客さんをどういうふうにさばくのか。当然ですが、下りてきたら、道の駅のほうに行っちゃいますよね。まずちょっと寄っちゃうというふうに私は思っております。それを山北方面、丹沢湖方面、あるいは箱根方面、共和方面というような様々なところへ誘導していかなければ、もう道の駅だけでも多分パンクになってしまう。土日はもう全く動かないような状態になってしまうということが懸念されますので、そういった意味では、やはり道の駅としての機能を私は分散させるよりしょうがないのかなと思っております。

今、ちょうど今度、今週もちょっとそういう関係で国交省の方にも見ていただきますけども、もう少し大きなほうの三保地区にも道の駅というのは可能かどうかというのを検討したいというふうに思っております。

見てごらんのとおり、道の駅が本当に小さな施設でございまして、これから御殿場市なんかは、これから道の駅の大型化をやるんだという大きなものを造るんだと言ってますけど、そういう大型化していく中において、あれだけの敷地がなくて、非常にスマート降りたときにもう一番目に入るし、多分、そのところで情報を取るんじゃないかというふうに思っておりますから、そういった意味では、全てが確定したことではなくて、まだ時間がありますので、その中でどういうふうにこの地域にとって一番よい方法、そして来訪者がもう一回リピーターになっていただく、私はこれが一番大事ではないかなと思っております。我々もそうですけども、どっかへ一回行って、ああもういいや、行ったからいいやというふうに思う人もいますし、あるいはいいところだった、あるいはまた次、来年は何ができそうだからまたそのとき行ってみようかというふうに考える方もいらっしゃいます。そういった意味で、皆さんから次に行きたくなるような、そんなような情報を出していかなければいけないというふうに思っておりますので、そういった意味では、瀬戸議員の言われたことも参考にしながら、やはり一番、山北町にとって、おそらく、しばらく1年ぐらいは、そういう開通した後はかなりの混雑が予想され

る。しかも施設はその三つぐらいがやっと間に合うかどうか、河内川のほうは間に合いませんよね。おそらく道の駅ぐらいしか間に合わないと思うんですね。オアシス公園も撤退してからやりますから2年以上先になると思いますし、ですからそういったことを考えると、やはりそういったような時系列に合ったような、スケジュールに合ったような方向性を出していくのが私は仕事だというふうに思っておりますので、ぜひまたそういうアイデアの中で考えていただければいいかなと思っております。

できるかできないか分かんないけど、とにかく私なんかインクラインのところにロープウェイでできないかなってね、黒岩知事もちらっと冗談で言いましたけども、そういったようなことは実際に可能かどうか、やはり検討していかなければいけない問題だろうというふうに考えております。

議 長 瀬戸伸二議員。

3 番 瀬 戸 アイデアというのはいろいろあると思うんです。もう60過ぎた私がこういうアイデアを出したと。若い世代が、町役場の若い世代がもっといいアイデアを持ってると思うんですよ。ウェルカムサインがよしあしとは言いませんが、もっと施設に対するオンリーワンをつくっていく必要があろうかと思うんですよ。その上で、やっぱり町の職員にある程度アイデアを求めることが重要になってこようかと思うんですが、その辺いかがでしょうか。

議 長 企画総務課長。

企 画 総 務 課 長 先ほど、若手職員のプロジェクト会議、今どうなってるかということなんです。このスマートインターの関係の最初に町のほうで山北スマートIC周辺土地利用構想、こちらを策定いたしました。その後、清水のあり方研究会様から報告書を頂きました。それを受けて若手職員のプロジェクトチームを設置して、どんなものができるか、どんな魅力的なものができるかという構想を考えていただきまして、そちらのほうも報告書は頂いておりますので、動きとしては、今そちらはもう止まってる。それを受けて、先ほど話にあります山北スマートIC開通に伴う山北町地域振興プロジェクト会議、これは神奈川県、中日本高速道路の職員で町の課長レベルですね、それらが入って、今研究のほうをしております。

ですから、その中でも、今御提案のあった、若手職員からもどんどん話を

聞く必要があるんじゃないかというような意見も受け入れられますので、今後、ですから、またどんどん考えを進めていく中でそういうものが必要になったら、また若手からも聞くというような手法をとりたいと思っております。

議 長 瀬戸伸二議員。

3 番 瀬 戸 今、清水のあり方研究会という話もありましたが、出された提案が町の考え方とちょっとずれが結構あるのではなかろうかと感じるんですけど、その辺についてあり方研究会さんの意見はどのように取りまとめるおつもりでしょうか。

議 長 企画総務課長。

企 画 総 務 課 長 清水あり方研究会様のほうからは、ふれあいビレッジ、あと水田のエリア活用、あと道の駅を今のものを使うか、喜一郎新田ですね。あちらのほうに新たに道の駅を設置できないとかですね。あと高齢者住宅ですね。こちらの清水の小学校・中学校、こちらを活用したものということで報告、提案のほうは受けております。

その中でふれあいビレッジにつきましては、農業とか食とか、そういう清水らしいものを活用して新たな再出発できないかということです。これについては、先ほど町長の答弁にもあったとおり、業者が撤退してから整備が始まりますので、まだまだここについては研究を進めていくようになっていくと考えております。

あと高齢者住宅、清水の小学校・中学校を利用している関係なんですけど、こちら町の方は、高齢者住宅ではなくて、施設を利用して体験施設とかそういうものを考えております。まだこれは考えなので、まだまだですから清水のあり方研究会の方と意見交換をしながら進めていくというようなことで考えております。

議 長 瀬戸伸二議員。

3 番 瀬 戸 そもそもなんですけど、スマートＩＣ周辺の土地利用という部分では、あり方研究会さんのほうは結構進んだ考えを持ってますけど、町としての基本的な考えはどういうところにあるんでしょうか。

議 長 企画総務課長。

企 画 総 務 課 長 これにつきましては、先ほど山北スマートＩＣ周辺土地利用構想、これ

令和2年につくったものなんです、まずこれが基本となりますので、この土地利用構想、こちらでスマートICゲートの演出、あと道の駅山北とふれあいビレッジの連携、そういうもの。あと、清水の小学校、中学校、旧清水保育園、こちらを有効に活用するということになってます。

こちらが土地利用構想で、ですから先ほど言った喜一郎新田とか、あと谷ヶの前にある田んぼ、水田なんです、あちらも研究会さんのほうから利用できないかという提言はいただいてるんですが、まだまだちょっとそこに、そこまでは踏み込めないというようなことになっております。

議 長 瀬戸伸二議員。

3 番 瀬 戸 これも新しい構想というか、前回12月の定例会で和田議員のほうから質問を受けたとき、町長は、学園都市のようなものがマッチングできないかと、研究機関でもいいと。最端のことをやるような企業が何か教育の場なりを誘致していく必要があるということをおっしゃってましたが、これはインターチェンジ開通により首都圏が近くなるということで提案されたものでしょうか。

議 長 町長。

町 長 前に答弁させていただいた、山北町がどのような理想的な地域になっていくかということについて、一つとして、私の中で学園都市のようなというお話をさせていただきました。この根底にあるのは、アメリカのボストンが湖や川の近くに大学とか、そういったものがありますから、山北町としても丹沢湖とか三つの川がある。そういったところにそういったようなコンセプトがとれないかというようなことでお話ししたわけです。

ただ、決定的に違うのは面積がないということですね。ちょうどこの間、駒澤大学の長谷部学校長とお話ししましたが、今の日本の大学のコンセプトとしては、一時は東京が一極集中で八王子とかいろんなところに持っていくわけですね。これがやはり、もう一度元に戻るような流れというんですか、別にそれで失敗したということではないんですけど、やはり本部機能というんですか、大学本体の機能としては、当然首都圏のほうへもう一度、重きを置くというような考えだそうです。これは駒澤大学に限らず、ほとんどの大学は今はそのような方向性を出してる。それはやはり生徒数の減

少とか様々な問題もありますけれども、そういう中での方法だそうです。

では、地方は魅力がないのかって言われると、それがまた逆でして、地方は地方で非常に魅力的だと。ただどっかの学部を持っていくとか、そういったことに関しては、やはりなかなか難しいというかあんまり考えてなさそうです。

ですから、我々としては、学園都市というのは大学生などが頻繁に来ていただく、例えば合宿所であるとか、そういったようなスポーツ施設の中の一つとして活用できないかというようなことで考えておりまして、そんな中でちょっと提案したのはユーシンロッジとか、ああいう話をしましたら、ぜひ見たいということで、また計画をしてるところでございますけども、そういったような山北しかないような自然のロケーションの中で、学生たちが何回か訪れて、そこでいろいろな想像力とかそういったものを養うというのは、非常に私は大事ではないかと。また山北はそういう自然環境には非常に恵まれたところだというふうに考えております。

コンセプトとしては、例えば今までの大学の合宿所とかそういうのは自分たちが何か試合とかそういうのをするために訓練したり、あるいはインフォメーションを考えたり、様々なものが体力的なこととか、そういったようなことやるのは合宿所だったんですけども、山北の場合これからは考えていかなきゃいけないのは、そういったことではなくて、自然を生かして、自然の中で訓練していく、つまり自分たちが望むようなものではなくて、例えば沢を上るとかという、自分がこう行きたいっていても、自然はそうなってませんから自然に合わせるしかないわけですね。そういったようなことが山北町では可能ではないかというふうに考えております。そういった意味では、非常に山北町は自然が豊かで、その中で学生たちがもしいろいろな、あるいはキャンプしたり、そういうことをするというのは、例えばその自然に自分たちが合わせる、そういった能力を、そういったコンセプトを考えていただく、そういったような場所になれば、山北町は非常にそういうような自然がたくさんあるところですから、そういうコンセプトの中で学園と結びついていく、そういうことができるんじゃないかなと、私は考えております。

そういったような一つのきっかけになればということで、ユーシンロッジ

のようなところがもし可能であれば、そこに何度でも訪れて、そして人数が多いですから、それが一遍に入れるわけじゃございませんので、度々違う人が来ていただいて使っていただく、そういったようなことが私は可能ではないかな。

ですから、あくまでも今までのような学園都市というようなコンセプトではなくて、むしろ生徒さん、あるいは大学側が自然に合わせて、そして子どもたち、学生に想像力を与えてくれるような、そんなようなことだったら山北町は協力できるんじゃないかなというふうに考えておりますんで、そういった意味でのちょっと言葉としては適切かどうか分かりませんでしたけど、学園都市のようなものが山北町は非常に有効ではないかというふうに考えて、答弁させていただいたものであります。

議 長 瀬戸伸二議員。

3 番 瀬 戸 町と関わりのある大学や研究機関があるということは、今後のまちづくりにおいても大きな手助けになってくれるのではないかなと思うんです。そこで町長、具現化に向けて、どのような動きをされるおつもりでしょうか。

議 長 町長。

町 長 今後、まちづくりの中でおいて、正直言って山北町、これだけあって、住んでるのは、このちっちゃなところちょこっとで。あとは8割近くは、ほとんど人が住んでない森林とか山が非常に多いわけですね。例えば西丹沢の山開きのときには、檜洞丸まで登って、シロヤシオツツジを見たり、そういったことは大勢の方が来てくれますけども、山北町よく来ていただく方が言ってるんですけど、あそこはいい、ここがいいって言ってくれるんですよ。実際、私行ったことないんですよ、そういうところは。

ですから、そういった意味では、山北町の魅力はまだまだいっぱい、我々の知らないところがまだまだいっぱいあるというふうに考えておりますんで、そういったことを含めて、どのようにまちづくりにつなげていくのか、生かしていくのかというのは、大変な我々に課された義務だというふうに思っておりますんで、そういった意味では、皆さんと一緒にしながら考えていきたいというふうに思っておりますんで、ぜひよろしくお願いいたします。

議 長 瀬戸伸二議員。

3 番 瀬 戸 和田議員の答弁の中に「誘致」という言葉も入ってましたので、ぜひとも待ってるだけじゃなくて、山北の魅力を大学、研究所に訴えて、ぜひ来てもらうような対策をとっていただきたいと思います。

次に、工場跡地の問題なんですけれど、まず水上なんですけど、既に向原保育園の移転という部分が発表されておりますが、向原保育園をどういう規模で、どのような位置につくるのかというのは、もうデザインされてるんでしょうか。

議 長 定住対策課長。

定 住 対 策 課 長 水上の部分の向原保育園に関しましては、ある程度ここで場所に関しては、ある程度の方向性を今年度中に出していきたいというふうに予定しております。規模につきましては、こちら、また子ども教育課のほうの所管になるかと思うんですけども、施設等に関しましては、それは今後のことになってますので、今現状でいきますと、ある程度の位置はどこら辺にしていこうかというところにとどまっているような状況です。

議 長 瀬戸伸二議員。

3 番 瀬 戸 ちょっと難しいと思うんですが規模についてなんですけど、じゃあ単純に現在の向原保育園と比べて、どのぐらいの大きさになるかということだけでも教えてください

議 長 定住対策課長。

定 住 対 策 課 長 現状、向原保育園を移転する一つの考え方として、園児の送迎用の駐車スペースがないというようなところが大きな課題もありますので、今現状、建物に関しましては、今後必要な施設と同規模かもう少しぐらい大きな形になると思うんですけども、それと同等程度の園庭とそれ以外に駐車スペース、そちらはちょっとある程度確保していきたいなというふうには考えております。

議 長 瀬戸伸二議員。

3 番 瀬 戸 水上に関しては、住宅地というような御答弁をいただけてますけれど、住宅をつくるに当たっては、これ町主導でやられるんですか。それとも地権者がやられるんでしょうか。

議 長 定住対策課長。

定 住 対 策 課 長 その部分に関しましては、当初、町が間に入りまして、民間事業者のほうに誘致していくというようなところで動いていたんですけども、今年度行いました民間事業者へのヒアリング、また土地利用研究会との意見交換の中でも、もっと町が主導してやってほしいというような、土地が大分広いので、そういうような御意見も出てきてますので、今町がどこまでいけるかというのを今までちょっと検討に入ってなかったんですけども、今後ちょっとそれを一つ検討として、どこまでできるかというところを、ある程度、来年度、6年度中にはちょっとその方針を出して、土地利用研究会、また庁舎内の内部で推進会議等も行っておりますので、そちらで方向づけをしていきたいというふうには考えております。

議 長 瀬戸伸二議員。

3 番 瀬 戸 水上においては、地権者が高齢化してるということで、地権者そのものが不安になってる部分が結構ありますので、できれば計画を早めに地権者に知らせていただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

それと、あと丸山なんですけれど、ハイツ丸山がよかったということで、住宅地をメインに考えてるってことなんです、何か丸山に住宅以外でメインになるものがあるといい、もちろん山の手てっぺんにありますけれど、中間にあってもいいのかなという気がするんですが、その辺、お考えありますでしょうか。

議 長 町長。

町 長 当初、当然今貸してる清水建設さん跡地については、当初は企業誘致をまず真っ先に考えておりました。三井造船さんから譲り受けた30区画、二つは駐車場にしましたから、28区画、おそらく半分売却できればいいかなというふうに考えておりましたけど、コロナ等の影響があったり、あるいはまた皆さんがそういうような景色もいいところで暮らしたい、あるいはそういうような要望もあって、おかげさまで全部売却できました。

その中で、今は2本立て、住宅地、全部住宅とかそういうことではございませんけども、企業誘致も含めた中で住宅をどのように貼りつけたほうがいいのか。だから、住宅も全くないということは、私は多分、次の跡地利用にはないと思います。一番現実的なのは半分ぐらいが住宅で、半分ぐらいが、

もしかしたらどっかの企業を誘致するというのが一つの選択肢になるかなと。

というのは、皆さんもお分かりのとおり、あそこに柑山さんというパン屋さんとかお弁当屋さんも来てます。御商売にもできるんだと、飲食業だけに捉えませんが、様々な企業さんにとっても、あそこは一つの魅力的な場所ではないかなというふうにも思っております。

そういった意味では必ず住宅地にしてしまうと、そういうことではなくて、今は住宅も一つのコンセプトの中に強く出しながら、そして企業誘致のほうも、ぜひそれに合うような企業さんでしたら、ですから最初のうちは工場って考えてましたけど、どうも工場じゃなさそうだなと。今はどちらかというと、そういうような例えばレストランであるとか、あるいはケーキ屋さんであるとか、そういったようなことも一つのコンセプトの中には、あるいは病院ってこともありますけども、そういったようなことも検討の中に入ってくるのかなというふうに思っておりますので、山北町にとりまして、非常にロケーションのよい場所でありますから、ぜひとも皆さんと一緒にそういう情報があれば、こういったような方法がとれるのではないかなというふうに検討していきたいと思っておりますし、また清水建設さんのほうも協力していただけるんで、もし住宅にするのであれば、こういうふうに造成をかけると、何戸ぐらい建ちますよとか、そういったようなことも相談に乗っていただけるそうですので、ぜひそういったことも含めながら検討してまいりたいというふうに思っております。

議 長 瀬戸伸二議員。

3 番 瀬 戸 次に、ハイツヴィラなんですが、観光、交流の拠点というふうな答弁をいただいております。

以前にも三保地区からは丹沢湖来る人いるけど、目的地としての施設がないというような御意見もいただいておりますが、ここ観光の目的地という施設を誘致するような御予定は考えていらっしゃいますでしょうか。

議 長 副町長。

副 町 長 ハイツ&ヴィラにつきましては、今後の中で検討していきたいというふうに思っていますので、現時点ではこれだというのは決まってませんので、また庁内と、あるいはいろんな関係機関と調整しながら考え方をまとめていき

たいというふうに考えてございます。

議 長 瀬戸伸二議員。

3 番 瀬 戸 地域の要望として、目的地となる施設が欲しいというような意見もありますので、心に留め置いていただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

あと清水小・中・幼の関係なんですけれど、ここの部分については、山高生からも結構意見が出ています。ホテルをつくったらどうかとか、そういういろんな意見が出てます。今後の計画において、やはりここ、いろんなアイデアが出てこようかと思うんですが、やっぱり職員がいろんな意見を出し合って、いいものを町民に提供するということが重要になってこようかと思うんですが、その辺どのようにお考えになっていますでしょうか。

議 長 企画総務課長。

企 画 総 務 課 長 先ほどお話をさせてもらったとおり、もちろん職員からもこれからお話は聞かせていただくとか、あと職員に限らずに町民の方からも意見を聞きながらやっていければというようなことで進めていきたいと考えております。

議 長 瀬戸伸二議員。

3 番 瀬 戸 ぜひともいろいろな人の意見を聞きながら、山北の発展のために生かしていただきたいと思います。

最後になりますが、スマートインター開通後、町のビジョン、私はもっとグランドデザインを明確にして町民に話すべきだと考えているんですけど、町長、今後の開通後のビジョンという部分を最後にお聞かせいただきたいと思います。

議 長 町長。

町 長 先ほども話させていただいたとおり、こんなに延びるとは思いませんでした。令和6年ぐらいには開通してるんじゃないかなというふうに思っておりました。その中でいろいろな課題が、延びたには延びた中で、いろんな課題も見えてきました。

一つは、やはりスマートインターの近くの3施設なり、ほかの施設も含めて、土地利用も含めて、これは当初想定してたことでありますけども、やはり延びた原因として、高松山トンネル工事が非常に延びてしまったと。難工事であった。それに伴って今、高松山トンネルでかなりの水が排出しなきゃ

いけない。これは自然流下を考えると、尺里川のほうに流れてくると。これも、やはりただ流すだけではなくて、その水の利用とかそういったようなことも当然考えていかなければいけない。あるいは尺里川の上の切り取った部分、そこについても非常に景色もいいですし、またその後の利用というのも非常に私としては必要ではないかなというふうに考えております。

そういったようなことを考えると、当初は、清水地区、あるいは三保に限定してたビジョンが少し町全体に広がってきたなというふうに考えております。そして、また先ほど言いましたように、丸山とかそういう跡地の利用も、当然、ただ住宅を貼りつければよいというようなことは少し考え方が変わってきてるのではないかなというふうに思ってます。

私のビジョンとしては、東京、横浜から非常に近くなってくるこのスマートインターをどのように東京方面の人に利用してもらえるか、あるいは関係人口として何度でも来ていただけるようにするのか、そのところのビジョンが私は一番大事だというふうに考えておりますので、ここでぱっと一言で言えるようなビジョンであればありがたいんですけども、なかなかそういうふうに、今現在、瀬戸議員にお答えできないんですけども。私の考えとしては、あくまでも東京、横浜、あるいは圏央道を使って山北へ大勢の人が来られる、そのときに山北の魅力をどのように発信していけるかという、そういうようなビジョンですね。そして、皆さんが山北へ来て、もう二度と来るもんがなんていうふうに思わないで何度でも来ていただけるような、そういうような分散型のものをどうしても考えていかなければいけないだろうというふうに、徐々にいくんではなくて、ある日開通した半年とか1年の間に、大勢の人が一回来ちゃいます、多分。その人たちはまだ施設がほとんどできてない状態で来ますので、そのときにどういうふう提案できて、また来ていただけるかということは非常に大事なことになるのではないかなと。ですから開通と同時にできてれば、こういうのをやりますよと。あるいは、こういうふうなのをやりたいというふうにお伝えできるんですけども、そこにタイムラグが生じてしまう。そのときにどういうふうにお伝えするかというのがこれから一番大事で、むしろインターネットの世界の中で考えなきゃいけないような情報の発信だろうというふうに思っております。ですから、ユ

ーチューブやSNS等も含めて、今回山北のお峰入りなんかがございましたけども、そういったものも含めて、山北の魅力をどういうふうにその時点で伝えなければ、来ただけ何もないじゃないかという、これで終わっちゃいますんで、そういうことがないように、ぜひとも皆さんと一緒に、つくり上げていきたいというふうに思っておりますんで、ぜひよろしくお願いいたします。